

地域小売業の構造変化 —長崎県を事例として—

建 野 堅 誠

1. はじめに

1994年5月より、さらに規制緩和が進む中で、大規模小売店舗法に代わって大規模小売店舗立地法が施行(2000年6月)されたが、これが旧法下での駆け込み出店を促し、大規模小売店舗(売場面積500㎡超。以下、大型店と略す)の活発な新規出店の一方で、店舗の廃業・移転・統合などが進行し、これを契機として、小売業の地域間競争(市町村間競争)がますます激化するに至った¹⁾。

本稿では、長崎県を事例²⁾として、小売業の地域間競争の結果、小売業の地域構造が1994年から99年³⁾にかけてどのように変化してきたか、ということの特に関心のある大型店の出店動向との関連で明らかにしてみたい。なお、分析は、94~99年を前期とし、さらに、それを94~97年(前期)と97~99年(後期)に分けて行うことにする。

2. 地域小売業の競争環境

小売業の地域構造を分析するに当たって、まず、それを取り巻く競争環境について、行政人口と商業人口の2指標に焦点を当ててみていこう。

周知のように、行政人口と商業人口は、地域小売業の環境要因の中でも極めて重要な指標である。すなわち、行政人口は、各地域における小売

業の可能性(潜在性)を示してくれる代表的な指標の1つであり、これが多ければ多いほど、その地域の小売業は、より大きな可能性を持つことになる。また、商業人口(市町村小売販売額を県人口1人当たり小売販売額で除した値)は、商圈規模を端的に示す指標であり、これが多ければ多いほど、その地域の小売商圈規模が大きいことを意味している。以下、この2指標を用いて、長崎県における地域小売業の競争環境が、1994年から99年にかけてどのように変化したか、ということを明らかにしていくことにする。

(1) 行政人口

長崎県の行政人口は、1994年の段階では155万6,612人であったが、97年には154万7,261人、99年には153万7,280人と漸次減少してきている(表1)。この間(94~99年)に実数で1万9,332人、率で1.2%減少しているわけであるが、このことは、長崎県小売業にとってその可能性が低下したことを意味している。

行政人口について地域別にみると、県南に位置する県庁所在都市・長崎市が最も多い。しかし、その数は、1994年の43万7,917人から97年には43万109人、99年には42万5,671人へと漸次減少し、対県シェアも94年の28.1%が97年には27.8%、99年には27.7%というふうに漸次低下している。こ

調査と研究 第33巻

表1. 行政人口

順位	地域	行政人口(人)			構成比(%)			増減率(%)		
		1994	1997	1999	1994	1997	1999	99/94	97/94	99/97
1	長崎県	1,556,612	1,547,261	1,537,280	100.0	100.0	100.0	-1.2	-0.6	-0.6
2	長崎市	437,917	430,109	425,671	28.1	27.8	27.7	-2.8	-1.8	-1.0
3	佐世保市	246,668	245,080	243,748	15.8	15.8	15.9	-1.2	-0.6	-0.5
4	早稲市	91,580	92,507	93,134	5.9	6.0	6.1	1.7	1.0	0.7
5	大村市	76,805	81,165	83,499	4.9	5.2	5.4	8.7	5.7	2.9
6	島原市	41,511	40,835	40,361	2.7	2.6	2.6	-2.8	-1.6	-1.2
7	長門町	34,451	37,701	39,387	2.2	2.4	2.6	14.3	9.4	4.5
8	福江市	29,243	28,933	28,598	1.9	1.9	1.9	-2.2	-1.1	-1.2
9	平戸市	26,476	25,571	25,111	1.7	1.7	1.6	-5.2	-3.4	-1.8
10	時津町	26,369	27,900	28,176	1.7	1.8	1.8	6.9	5.8	1.0
11	松浦市	23,988	23,445	22,975	1.5	1.5	1.5	-4.2	-2.3	-2.0
12	多良見町	17,141	17,545	17,469	1.1	1.1	1.1	1.9	2.4	-0.4
13	厳原町	16,433	16,029	15,522	1.1	1.0	1.0	-5.5	-2.5	-3.2
14	波佐見町	15,746	15,861	15,762	1.0	1.0	1.0	0.1	0.7	-0.6
15	川棚町	15,077	15,442	15,490	1.0	1.0	1.0	2.7	2.4	0.3
16	郷ノ浦町	13,382	13,037	12,859	0.9	0.8	0.8	-3.9	-2.6	-1.4
17	*三和町	13,051	12,944	12,710	0.8	0.8	0.8	-2.6	-0.8	-1.8
18	小浜町	12,875	12,323	12,049	0.8	0.8	0.8	-6.4	-4.3	-2.2
19	佐々町	12,598	13,016	13,016	0.8	0.8	0.9	5.2	3.3	1.9
20	有明町	12,271	12,364	12,314	0.8	0.8	0.8	0.4	0.8	-0.4
21	国見町	12,214	12,130	11,937	0.8	0.8	0.8	-2.3	-0.7	-1.6
22	琴海町	11,852	12,582	12,922	0.8	0.8	0.8	9.0	6.2	2.7
23	高来町	10,987	11,436	11,392	0.7	0.7	0.7	3.7	4.1	-0.4
24	東彼杵町	10,400	10,308	10,189	0.7	0.7	0.7	-2.0	-0.9	-1.2
25	芦辺町	10,123	9,797	9,600	0.7	0.6	0.6	-5.2	-3.2	-2.0
26	西彼杵町	9,956	9,939	9,908	0.6	0.6	0.6	-0.5	-0.2	-0.3
27	有家町	9,944	9,865	9,704	0.6	0.6	0.6	-2.4	-0.8	-1.6
28	西有家町	9,634	9,468	9,278	0.6	0.6	0.6	-3.7	-1.7	-2.0
29	西海町	9,593	9,475	9,346	0.6	0.6	0.6	-2.6	-1.2	-1.4
30	加津佐町	9,133	8,889	8,772	0.6	0.6	0.6	-4.0	-2.7	-1.3
31	生月町	8,925	8,531	8,389	0.6	0.6	0.5	-6.0	-4.4	-1.7
32	大瀬戸町	8,909	8,566	8,399	0.6	0.6	0.5	-5.7	-3.9	-1.9
33	美津島町	8,897	8,740	8,688	0.6	0.6	0.6	-2.3	-1.8	-0.6
34	野母崎町	8,580	8,310	8,159	0.6	0.5	0.5	-4.9	-3.1	-1.8
35	飯盛町	8,451	8,476	8,442	0.5	0.5	0.5	-0.1	0.3	0.4
36	*外海町	8,447	7,808	7,399	0.5	0.5	0.5	-12.4	-7.6	-5.2
37	深川町	8,224	7,773	7,646	0.5	0.5	0.5	-7.0	-5.5	-1.6
38	深江町	8,158	8,203	8,298	0.5	0.5	0.5	1.7	0.6	1.2
39	上五島町	8,143	7,835	7,663	0.5	0.5	0.5	-5.9	-3.8	-2.2
40	田平町	8,142	8,055	8,004	0.5	0.5	0.5	-1.7	-1.1	-0.6
41	吾妻町	8,023	8,013	8,070	0.5	0.5	0.5	0.6	-0.1	0.7
42	吾勝本町	7,750	7,392	7,227	0.5	0.5	0.5	-6.7	-4.6	-2.2
43	口之津町	7,484	7,227	7,062	0.5	0.5	0.5	-5.6	-3.4	-2.3
44	小佐々町	7,461	7,560	7,494	0.5	0.5	0.5	0.4	1.3	-0.9
45	富江町	7,388	7,054	6,807	0.5	0.5	0.4	-7.9	-4.5	-3.5
46	南有馬町	7,264	6,943	6,751	0.5	0.4	0.4	-7.1	-4.4	-2.8
47	小長井町	6,986	6,989	6,989	0.4	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0
48	江迎町	6,739	6,717	6,559	0.4	0.4	0.4	-2.7	-0.3	-2.4
49	*瑞穂町	6,330	6,265	6,169	0.4	0.4	0.4	-2.5	-1.0	-1.5
50	森山町	6,265	6,321	6,283	0.4	0.4	0.4	0.3	0.9	-0.6
51	大島町	6,223	5,968	5,817	0.4	0.4	0.4	-6.5	-4.1	-2.5
52	千々石町	6,211	6,132	6,046	0.4	0.4	0.4	-2.7	-1.3	-1.4
53	古々井町	6,076	6,338	6,392	0.4	0.4	0.4	5.2	4.3	0.9
54	鹿町町	6,039	5,959	5,795	0.4	0.4	0.4	-4.0	-1.3	-2.8
55	上対馬町	5,835	5,533	5,349	0.4	0.4	0.3	-8.3	-5.2	-3.3
56	布津町	5,556	5,476	5,324	0.4	0.4	0.3	-4.2	-1.4	-2.8
57	新魚目町	5,396	5,352	5,173	0.3	0.3	0.3	-4.1	-0.8	-3.3
58	南串山町	5,329	5,139	4,994	0.3	0.3	0.3	-6.3	-3.6	-2.8
59	石田町	5,204	5,118	5,046	0.3	0.3	0.3	-3.0	-1.7	-1.4
60	豊玉町	5,130	5,046	4,904	0.3	0.3	0.3	-4.4	-1.6	-2.8
61	若松町	5,039	4,820	4,614	0.3	0.3	0.3	-8.4	-4.3	-4.3
62	香焼町	4,986	4,853	4,830	0.3	0.3	0.3	-3.1	-2.7	-0.5
63	上泉町	4,926	4,768	4,644	0.3	0.3	0.3	-5.7	-3.2	-2.6
64	*北有馬町	4,834	4,677	4,605	0.3	0.3	0.3	-4.7	-3.2	-1.5
65	奈留町	4,768	4,522	4,313	0.3	0.3	0.3	-9.5	-5.2	-4.6
66	*岐宿町	4,640	4,578	4,545	0.3	0.3	0.3	-2.0	-1.3	-0.7
67	*三井楽町	4,585	4,364	4,201	0.3	0.3	0.3	-8.4	-4.8	-3.7
68	宇久町	4,515	4,307	4,147	0.3	0.3	0.3	-8.2	-4.6	-3.7
69	*世知原町	4,515	4,400	4,310	0.3	0.3	0.3	-4.5	-2.5	-2.0
70	愛野町	4,472	4,552	4,579	0.3	0.3	0.3	2.4	1.8	0.6
71	小値賀町	4,407	4,116	3,959	0.3	0.3	0.3	-10.2	-6.6	-3.8
72	奈良尾町	4,096	3,790	3,705	0.3	0.2	0.2	-9.5	-7.5	-2.2
73	福島町	3,706	3,648	3,576	0.2	0.2	0.2	-3.5	-1.6	-2.0
74	峰町	3,229	3,151	3,026	0.2	0.2	0.2	-6.3	-2.4	-4.0
75	鷹島町	3,213	3,063	2,990	0.2	0.2	0.2	-6.9	-4.7	-2.4
76	崎戸町	2,753	2,515	2,461	0.2	0.2	0.2	-10.6	-8.6	-2.1
77	玉之浦町	2,547	2,424	2,340	0.2	0.2	0.2	-8.1	-4.8	-3.5
78	*大島村	2,040	1,916	1,856	0.1	0.1	0.1	-9.0	-6.1	-3.1
79	伊王島町	1,230	1,203	1,097	0.1	0.1	0.1	-10.8	-2.2	-8.8
80	*高島町	1,128	1,059	1,003	0.1	0.1	0.1	-11.1	-6.1	-5.3

(注) 1. 地域は1994年の行政人口が多い順に並び替えてある。
 2. * 地域は商業人口が秘匿の地域で順位から除外してある。
 (資料) 市町村自治研究会編「全国市町村要覧」(各年版), 第一法規。

地域小売業の構造変化

れに続くのは、県北の中核都市・佐世保市で、その数は、94年が24万6,668人、97年が24万5,080人、99年が24万3,748人となっており、長崎市と同様に実数では漸次減少しているが、減少率が県平均とほぼ同様であったため、対県シェアでは94年が15.8%、97年が15.8%、99年が15.9%とほとんど横這いで推移している。このように、長崎市と佐世保市では行政人口が伸び悩んでいるが、それでも、両都市の対県シェアをみるかぎり、両都市小売業の可能性が県内では群を抜いていると言える。

両都市以外では、1994年現在、県央に位置する諫早市と大村市が各々9万1,580人（対県シェア5.9%）、7万6,805人（同4.9%）、島原半島の中心都市である島原市が4万1,511人（同2.7%）、長崎市のベッドタウンである長与町が3万4,451人（同2.2%）となっており、これらの4地域が3万人を上回っている。残りの地域は、「1万人以上3万人未満」が17地域、「5千人以上1万人未満」が34地域、「5千人未満」が13地域といった状況である。

長崎市と佐世保市を除く地域のその後の傾向をみると、「3万人以上」は、1997年・99年とも上記の4地域にとどまっている。「1万人以上3万人未満」は、97年・99年とも16地域で94年に比べて1地域減少している。「5千人以上1万人未満」は、97年では94年と同数の34地域であったが、99年には2地域減って32地域となっている。「5千人未満」は、97年には1地域増えて14地域、99年にはまた2地域増えて16地域に達している。

以上の地域についてもう少し立ち入ってみると、1994～99年（通期）に増加している地域は18地域あるが、そのうち、94～97年（前期）・97～

99年（後期）を通じて増加している地域は、長与町、琴海町、大村市、時津町、佐々町、吉井町、川棚町、愛野町、深江町、諫早市の10地域であり、残りの8地域は、高来町、多良見町、小佐々町、有明町、森山町、波佐見町の6地域が前期に増加、後期に減少、吾妻町が前期に減少、後期に増加、また、小長井町が前期に増加、後期に横這いとなっている。そして、上記以外の52地域は、通期ではいずれも減少しており、しかも、小長井町（前期に増加）以外の51地域では、前期・後期を通じて一貫して減少している。なお、この間の変化傾向で特に注目されるのは、長崎市と佐世保市の2大都市で前期・後期を通じて一貫して減少しているのに対して、両地域に隣接・近接する地域で前期・後期を通じて一貫して増加している地域が多くなっていることである。このことは、恐らく両都市の空間構造に限界があり、人口のスプロール化・外縁化が進展した結果であると言えよう。

(2) 商業人口

長崎県の商業人口についてみると、本稿では、長崎県を1つのクローズド・システムとして捉えているので、県レベルでは、商業人口と行政人口とは同数である。したがって、商業人口も県全体では漸次減少したことになり、この点からも、小売業を取り巻く環境は厳しくなってきている。

商業人口について地域別にみると、行政人口と同様に各年とも長崎市が最も多くなっている（表2）。しかし、その数は、1994年の52万7,443人から97年には49万6,778人、99年には47万4,219人へと漸次減少し、対県シェアも94年の33.9%が97年には32.1%、99年には30.8%というふうに漸次低下している。これに続くのは、行政人口と同様に

調査と研究 第33巻

佐世保市で、その数は、94年が29万7,053人、97年が27万7,962人、99年が30万3,834人となっており、前期に減少したものの、後期に増加して、99年には30万人の大台に乗せている。したがって、

対県シェアは、94年の19.1%から97年には18.0%と若干低下したが、99年には19.8%まで上昇している。なお、両都市の対県シェアは各年とも行政人口のそれを上回っており、このことは、県内に

表2. 商業人口

順位	地域	商業人口(人)			構成比(%)			増減率(%)		
		1994	1997	1999	1994	1997	1999	99/94	97/94	99/97
	長崎県	1,556,612	1,547,261	1,537,280	100.0	100.0	100.0	-1.2	-0.6	-0.6
1	長崎市	527,443	496,778	474,219	33.9	32.1	30.8	-10.1	-5.8	-4.5
2	佐世保市	297,053	277,962	303,834	19.1	18.0	19.8	2.3	-6.4	9.3
3	諫早市	120,761	120,478	110,882	7.8	7.8	7.2	-8.2	-0.2	-8.0
4	大島村	80,336	90,859	87,628	5.2	5.9	5.7	9.1	13.1	-3.6
5	島原市	50,336	53,898	50,532	3.2	3.5	3.3	0.4	7.1	-6.2
6	時津町	38,087	42,099	45,678	2.4	2.7	3.0	19.9	10.5	8.5
7	長門町	30,522	34,134	33,371	2.0	2.2	2.2	9.3	11.8	-2.2
8	福江市	29,335	33,106	31,900	1.9	2.1	2.1	8.7	12.9	-3.6
9	平戸市	18,759	17,096	17,388	1.2	1.1	1.1	-7.3	-8.9	1.7
10	松浦市	17,248	19,675	17,141	1.1	1.3	1.1	-0.6	14.1	-12.9
11	厳原町	17,242	14,820	14,667	1.1	1.0	1.0	-14.9	-14.0	-1.0
12	佐々木町	16,009	15,935	16,147	1.0	1.0	1.1	0.9	-0.5	1.3
13	郷ノ浦町	15,198	17,664	17,149	1.0	1.1	1.1	12.8	16.2	-2.9
14	多良見町	14,681	16,689	22,597	0.9	1.1	1.5	53.9	13.7	35.4
15	川棚町	14,347	13,355	13,162	0.9	0.9	0.9	-8.3	-6.9	-1.4
16	佐佐見町	9,985	10,232	9,878	0.6	0.7	0.6	-1.1	2.5	-3.5
17	小浜町	9,035	8,803	8,668	0.6	0.6	0.6	-4.1	-2.6	-1.5
18	関見町	9,021	9,179	8,792	0.6	0.6	0.6	-2.5	-1.7	-4.2
19	上五島町	8,555	8,468	7,501	0.5	0.5	0.5	-12.3	-1.0	-11.4
20	有之津町	8,538	8,777	11,161	0.5	0.6	0.8	36.1	2.8	32.3
21	白瀬町	7,693	7,510	7,467	0.5	0.5	0.5	-3.0	-2.5	-0.6
22	壱岐町	7,642	9,495	9,465	0.5	0.6	0.6	23.9	24.2	-0.3
23	江迎町	7,465	7,262	6,897	0.5	0.5	0.4	-7.6	-2.7	-5.0
24	芦辺町	7,005	7,790	7,705	0.5	0.5	0.5	10.0	11.2	-1.1
25	田平町	6,713	6,955	7,513	0.4	0.4	0.5	11.9	3.6	8.0
26	有明町	6,569	7,667	11,136	0.4	0.5	0.7	69.5	16.7	45.3
27	有川町	6,340	5,879	5,615	0.4	0.4	0.4	-11.4	-7.3	-4.5
28	高来町	6,261	6,516	5,979	0.4	0.4	0.4	-4.5	4.1	-8.2
29	加津佐町	6,216	6,378	5,713	0.4	0.4	0.4	-8.1	2.6	-10.4
30	生月町	6,172	6,274	4,500	0.4	0.4	0.3	-27.1	1.7	-28.3
31	深江町	6,145	7,089	7,068	0.4	0.5	0.5	15.0	15.4	-0.3
32	野塚町	5,640	6,728	7,055	0.4	0.4	0.5	25.1	19.3	4.9
33	西有家町	5,364	5,149	5,126	0.3	0.3	0.3	-4.4	-4.0	-0.5
34	西彼町	5,133	4,969	5,221	0.3	0.3	0.3	1.7	-3.2	5.1
35	大瀬戸町	5,104	5,084	4,579	0.3	0.3	0.3	-10.3	-0.4	-9.9
36	上対馬町	5,069	4,753	4,702	0.3	0.3	0.3	-7.2	-6.2	-1.1
37	東彼杵町	4,630	6,393	5,869	0.3	0.4	0.4	26.7	38.1	-12.4
38	大島町	4,516	4,309	4,272	0.3	0.3	0.3	-5.4	-4.6	-0.9
39	豊玉町	4,507	4,145	4,189	0.3	0.3	0.3	-7.1	-8.0	1.1
40	勝本町	4,431	4,020	3,987	0.3	0.3	0.3	-10.0	-9.3	-0.8
41	千々本町	4,404	4,369	3,891	0.3	0.3	0.3	-11.6	-0.8	-10.9
42	富江町	4,380	4,136	3,393	0.3	0.3	0.2	-22.5	-5.6	-18.0
43	南有馬町	4,344	3,968	4,025	0.3	0.3	0.3	-7.3	-8.6	1.4
44	美津島町	4,101	7,971	9,481	0.3	0.5	0.6	131.2	94.4	18.0
45	小佐々町	4,057	4,280	4,252	0.3	0.3	0.3	4.8	5.5	-0.7
46	吾妻町	3,637	4,254	4,251	0.2	0.3	0.3	17.2	11.5	5.1
47	野井町	3,581	3,992	3,314	0.2	0.3	0.2	-7.4	11.5	-17.0
48	野井町	3,429	3,155	2,971	0.2	0.2	0.2	-13.4	-8.0	-5.8
49	新長井町	3,402	3,121	3,083	0.2	0.2	0.2	-9.4	-8.3	-1.2
50	新魚目町	3,199	4,879	6,272	0.2	0.3	0.4	96.1	52.5	28.6
51	飯盛町	3,146	3,775	3,735	0.2	0.2	0.2	18.7	20.0	-1.1
52	奈良尾町	3,105	3,375	2,949	0.2	0.2	0.2	-5.0	8.7	-12.6
53	小値賀町	3,047	2,917	2,545	0.2	0.2	0.2	-16.5	-4.3	-12.8
54	鹿町	2,770	2,637	2,351	0.2	0.2	0.2	-15.1	-4.8	-10.8
55	森山町	2,724	3,386	2,814	0.2	0.2	0.2	3.3	24.3	-16.9
56	宇久町	2,703	2,700	2,635	0.2	0.2	0.2	-2.5	-0.1	-2.4
57	上県町	2,701	2,291	2,132	0.2	0.1	0.1	-21.1	-15.2	-7.0
58	西海町	2,636	2,759	2,906	0.2	0.2	0.2	10.2	4.6	5.4
59	若松町	2,591	2,161	1,895	0.2	0.1	0.1	-26.9	-16.6	-12.3
60	石松町	2,550	2,652	2,149	0.2	0.2	0.1	-15.7	4.0	-19.0
61	奈佐町	2,422	2,627	2,841	0.2	0.2	0.2	17.3	8.5	8.1
62	南串山町	2,318	2,395	2,031	0.1	0.2	0.1	-12.4	3.3	-15.2
63	香焼町	2,105	1,729	1,627	0.1	0.1	0.1	-22.7	-17.9	-5.9
64	福島町	1,886	1,621	1,533	0.1	0.1	0.1	-18.7	-14.1	-5.4
65	布津町	1,632	2,241	2,214	0.1	0.1	0.1	35.7	37.3	-1.2
66	鷹島町	1,593	2,343	2,376	0.1	0.2	0.2	49.1	47.0	1.4
67	峰島町	1,258	1,588	1,654	0.1	0.1	0.1	31.5	26.3	4.1
68	崎戸町	1,063	968	872	0.1	0.1	0.1	-15.0	-9.0	-9.9
69	玉之浦町	919	818	608	0.1	0.1	0.0	-33.9	-11.1	-25.7
70	伊予島町	596	413	370	0.0	0.0	0.0	23.4	24.1	-0.5
	高島町	x	5,299	5,223	x	0.3	0.3	x	x	-10.6
	外瑞穂町	x	3,930	3,493	x	0.3	0.2	x	x	-11.1
	北有馬町	x	x	3,303	x	0.2	x	x	x	x
	大島村	x	x	3,237	x	x	x	x	x	x
	世知原町	x	2,401	1,881	x	0.2	0.1	x	x	-21.7
	岐宿町	x	x	1,876	x	x	0.1	x	x	x
	三井港町	2,379	2,492	x	0.2	0.2	x	4.8	x	x

(注) 1. 地域は1994年の商業人口が多い順に並び替えてある。

2. Xは秘密(小売販売額が秘密のため商業人口を算出できない)。

(資料) 1. 市町村自治研究会編『全国市町村要覧』(各年版), 第一法規。 2. 『商業統計表-第3巻-』(各年版)。

地域小売業の構造変化

において、両都市が抜群の商圈規模を誇る小売中心都市であることを示唆している。

両都市以外では、1994年現在、諫早市の12万761人（対県シェア7.8%）と大村市の8万336人（同5.2%）、島原市が5万336人（同3.2%）、時津町が3万8,087人（同2.4%）、長与町が3万522人（同2.0%）と5地域が3万人以上の地域となっているが、そのうち、長与町を除いて、いずれも商業人口が行政人口を上回っている（時津町は行政人口では3万人未満である）。残りの地域は、「1万人以上3万人未満」が8地域、「5千人以上1万人未満」が21地域、「5千人未満」が34地域となっている。

長崎市と佐世保市を除く地域のその後の傾向をみると、「3万人以上」は、1997年に上記の5地域に福江市が加わって6地域となり、99年は97年と全く同数である。「1万人以上3万人未満」は、97年は94年と同数の8地域であったが、99年には1地域増えて9地域となっている。「5千人以上1万人未満」は、97年には1地域減って20地域となり、99年にはさらに1地域減って19地域を数える。「5千人未満」は、97年・99年とも94年と同数の34地域である。

これについてももう少し立ち入ってみると、通期に増加している地域は29地域あるが、そのうち、前期・後期を通じて一貫して増加している地域は、時津町、多良見町、有家町、田平町、有明町、愛野町、美津島町、吾妻町、新魚目町、西海町、奈留町、鷹島町、峰町の13地域を数えるにすぎない。

なお、残り39地域は、通期ではすべて減少しており、しかも、そのうちの26地域は前期・後期を通じて一貫して減少しているが、その他の13地域

のうち、平戸市、南有馬町、豊玉町の3地域が後期になって若干ではあるが増加に転じているのは、これらの地域にとっては明るい材料であると言える。

3. 小売中心地体系の変貌

(1) 吸引度指数

各地域の小売中心地性を測る1つの指標として吸引度指数がある。この指標は、上述した商業人口を行政人口で除して算出されるが、周知のように、この値が1を超える場合、その地域は、他の地域から買物客を吸引しているか、あるいは少なくとも、その地域から他地域への買物客の流出を上回る、他地域からその地域へ買物客の流入をみているはずであるので、その地域は、小売業の中心地であるとみなすことができる。そこで、以下、この指標を利用して、県内各地域の小売中心地性の変貌についてみていこう。

1994年現在における各地域の吸引度指数をみると、この指数が1を上回っている地域は、時津町（1.444）、諫早市（1.319）、佐々町（1.271）愛野町（1.261）島原市（1.213）、長崎市（1.204）、佐世保市（1.204）、郷ノ浦町（1.136）、江迎町（1.108）、上五島町（1.051）、巖原町（1.049）、大村市（1.046）、口之津町（1.029）、福江市（1.003）の14地域となっている。つまり、94年現在では、これら14地域が独自の商圈を形成し、その中心に位置していることになる。他方、残りの56地域は吸引度指数が1未満で、すべて消費地域となっているが、それをもう少し立ち入ってみると、流出率が20%未満の地域が7地域、20～50%未満が31地域、50%以上が18地域となっている

調査と研究 第33巻

表3. 吸引度指数

順位	地域	指数			倍率		
		1994	1997	1999	99/94	97/94	99/97
1	長崎県	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
2	時津町	1.444	1.509	1.621	1.122	1.045	1.074
3	諫早市	1.319	1.302	1.191	0.903	0.988	0.914
4	佐々町	1.271	1.224	1.218	0.958	0.963	0.995
5	愛野町	1.261	1.478	1.541	1.222	1.172	1.042
6	島原市	1.213	1.320	1.252	1.032	1.088	0.949
7	長崎市	1.204	1.155	1.114	0.925	0.959	0.965
8	佐世保市	1.204	1.134	1.247	1.035	0.942	1.099
9	郷ノ浦町	1.136	1.355	1.334	1.174	1.193	0.984
10	江迎町	1.108	1.081	1.052	0.949	0.976	0.973
11	上五島町	1.051	1.081	0.979	0.932	1.029	0.906
12	厳原町	1.049	0.925	0.945	0.901	0.881	1.022
13	大村市	1.046	1.119	1.049	1.003	1.070	0.937
14	口之津町	1.029	1.039	1.057	1.028	1.010	1.017
15	福江市	1.003	1.144	1.115	1.112	1.141	0.975
16	川棚町	0.952	0.865	0.850	0.893	0.909	0.983
17	長与町	0.886	0.905	0.847	0.956	1.022	0.936
18	豊玉町	0.879	0.821	0.854	0.972	0.935	1.040
19	上対馬町	0.869	0.859	0.879	1.012	0.989	1.023
20	有家町	0.859	0.890	1.197	1.394	1.036	1.345
21	多良見町	0.856	0.951	1.294	1.510	1.111	1.360
22	田平町	0.825	0.863	0.939	1.138	1.047	1.087
23	有川町	0.771	0.756	0.734	0.953	0.981	0.971
24	奈良尾町	0.758	0.890	0.796	1.050	1.174	0.894
25	深江町	0.753	0.864	0.852	1.131	1.147	0.986
26	関見町	0.739	0.757	0.737	0.997	1.025	0.973
27	大島町	0.726	0.722	0.734	1.012	0.995	1.017
28	松浦市	0.719	0.839	0.746	1.038	1.167	0.889
29	千々石町	0.709	0.713	0.644	0.908	1.005	0.903
30	平戸市	0.709	0.669	0.692	0.977	0.944	1.036
31	小浜町	0.702	0.714	0.719	1.025	1.018	1.007
32	芦辺町	0.692	0.795	0.803	1.160	1.149	1.009
33	小値賀町	0.692	0.709	0.643	0.930	1.025	0.907
34	生月町	0.692	0.735	0.536	0.776	1.064	0.729
35	加津佐町	0.681	0.717	0.651	0.957	1.054	0.908
36	琴海町	0.645	0.755	0.732	1.136	1.170	0.971
37	波佐見町	0.634	0.645	0.627	0.988	1.017	0.971
38	宇久町	0.599	0.627	0.635	1.061	1.047	1.014
39	南有馬町	0.598	0.572	0.596	0.997	0.956	1.043
40	富江町	0.593	0.586	0.498	0.841	0.989	0.850
41	新魚目町	0.593	0.912	1.213	2.046	1.538	1.330
42	吉井町	0.589	0.630	0.519	0.880	1.069	0.823
43	大瀬戸町	0.573	0.594	0.545	0.952	1.036	0.919
44	勝本町	0.572	0.544	0.552	0.965	0.951	1.014
45	高来町	0.570	0.570	0.525	0.921	1.000	0.921
46	西有馬町	0.557	0.544	0.552	0.992	0.977	1.016
47	上県町	0.548	0.481	0.459	0.837	0.876	0.955
48	小佐々町	0.544	0.566	0.567	1.043	1.041	1.002
49	有明町	0.535	0.620	0.904	1.689	1.158	1.458
50	西彼町	0.516	0.500	0.527	1.022	0.970	1.054
51	若松町	0.514	0.448	0.411	0.799	0.872	0.916
52	福島町	0.509	0.444	0.429	0.842	0.873	0.965
53	奈留町	0.508	0.581	0.659	1.297	1.144	1.134
54	鷹島町	0.496	0.765	0.795	1.602	1.542	1.039
55	石田町	0.490	0.518	0.426	0.869	1.057	0.822
56	小長井町	0.487	0.447	0.441	0.906	0.917	0.988
57	伊王島町	0.484	0.614	0.670	1.384	1.269	1.091
58	美津島町	0.461	0.912	1.091	2.367	1.979	1.197
59	鹿町	0.459	0.443	0.406	0.884	0.965	0.917
60	吾妻町	0.453	0.506	0.528	1.165	1.116	1.044
61	東彼杵町	0.445	0.620	0.576	1.294	1.393	0.929
62	南串山町	0.435	0.466	0.407	0.935	1.071	0.873
63	森山町	0.435	0.536	0.448	1.030	1.232	0.836
64	香焼町	0.422	0.356	0.337	0.798	0.844	0.946
65	野母崎町	0.400	0.380	0.364	0.911	0.950	0.959
66	峰町	0.390	0.504	0.547	1.403	1.294	1.084
67	崎戸町	0.386	0.385	0.354	0.918	0.996	0.921
68	飯盛町	0.372	0.445	0.442	1.188	1.196	0.993
69	玉之浦町	0.361	0.337	0.260	0.720	0.935	0.770
70	布津町	0.294	0.409	0.416	1.416	1.394	1.016
	西海町	0.275	0.291	0.311	1.132	1.059	1.068
	高島町	x	0.390	0.369	x	x	0.944
	三和町	x	0.409	0.411	x	x	1.004
	外海町	x	0.503	0.472	x	x	0.938
	瑞穂町	x	x	0.535	x	x	x
	北有馬町	x	x	0.703	x	x	x
	大島村	x	x	x	x	x	x
	世知原町	x	0.546	0.436	x	x	0.800
	三井薬町	0.519	0.571	x	x	1.101	x
	岐宿町	x	x	0.413	x	x	x

(注) 1. 地域は1994年の吸引度指数が高い順に並び替えてある。
 2. Xは秘匿(小売販売額が秘匿のため吸引度指数を算出できない)。
 (資料) 表2. と同じ。

地域小売業の構造変化

(表3)。

1997年になると、吸引度指数が1以上の地域、つまり小売中心地域は、時津町(1.509)、愛野町(1.478)、郷ノ浦町(1.355)、島原市(1.320)諫早市(1.302)、佐々町(1.224)、長崎市(1.155)、福江市(1.144)、佐世保市(1.134)、大村市(1.119)、江迎町(1.081)、上五島町(1.081)、口之津町(1.039)の13地域であるが、そのうち、94年と比べて吸引度指数を上昇させた地域は、時津町、愛野町、郷ノ浦町、島原市、福江市、大村市、上五島町、口之津町の8地域となっている。残りの57地域は消費地域であるが、これらの地域を流出率で整理すると、20%未満が13地域、20~50%未満が30地域、50%以上が14地域となっている。

これらの地域の吸引度指数を1994年と対比してみると、上昇が35地域、低下が22地域となっている。なお、その中で特に目立った地域は巖原町で、同町は、94年には小売中心地域(吸引度指数1.049)であったが、97年には吸引度指数が0.952に低下して消費地域へと転落している。また、美津島町と新魚目町が各々吸引度指数を0.461→0.912、0.593→0.912と上昇させているのも注目される。

1999年になると、小売中心地域は、時津町(1.621)、愛野町(1.541)、郷ノ浦町(1.334)、多良見町(1.294)、島原市(1.252)、佐世保市(1.247)、佐々町(1.218)、新魚目町(1.213)、有家町(1.197)、諫早市(1.191)、福江市(1.115)、長崎市(1.114)、美津島町(1.091)、口之津町(1.057)、江迎町(1.052)、大村市(1.049)の16地域となった。なお、そのうち、97年と対比して吸引度指数を上昇させた地域は、佐

世保市、時津町、愛野町、多良見町、新魚目町、有家町、美津島町、口之津町の8地域で、特に、多良見町、新魚目町、有家町、美津島町の4地域は、従来の消費地域から初めて小売中心地域へと上昇した。一方、消費地域は54地域に減少したが、これらの地域を流出率で整理すると、20%未満が10地域、20~50%未満が28地域、50%以上が16地域となっている。これらの地域の吸引度指数を97年と対比してみると、上昇が22地域、低下が32地域と前回に比べて上昇地域が激減し、低下地域がかなり増加しているのが特徴的である。なお、このグループの中で特に目立った地域は上五島町であるが、同町は、吸引度指数が97年の1.081から99年には0.979まで低下し、従来の小売中心地域から消費地域へと転落している。

(2) 重層化する地域間競争

以上のことを踏まえて、1994年から99年にかけて長崎県の小売中心地体系がどのように変貌してきたかということについて、主として表4および5を参照して整理すると、以下のとおりである。

1994年における長崎県の小売中心地体系は、県南の県庁所在都市・長崎市と県北の中核都市・佐世保市がほとんど競合することなく広域型小売中心地域として位置し、この両都市を頂点として、次に、諫早市、大村市、島原市、時津町の4地域が商圈規模3~11万人の小売中心地域として続き、さらに、福江市、巖原町、佐々町、郷ノ浦町、上五島町、口之津町、江迎町、愛野町の8地域が商圈規模で3万人未満の小売中心地域を形成し、その下に多くの消費地域(吸引度指数1未満の56地域)が位置するという重層構造になっている。

これについてももう少し立ち入ってみると、県下

調査と研究 第33巻

表4. 吸引度指数の変化傾向

1994年現在	94～97年	97～99年	地域
1以上	上昇	上昇	時津町(1.621), 愛野町(1.541), 口之津町(1.057)
	上昇	低下	*島原市(1.252), *郷ノ浦町(1.334), 上五島町(0.979)*大村市(1.049), *福江市(1.115)
	低下	上昇	*佐世保市(1.247), 巖原町(0.945)
	低下	低下	諫早市(1.191), 佐々町(1.218), 長崎市(1.114), 江迎町(1.052)
0.8以上1未満	上昇	上昇	有家町(1.197), 多良見町(1.297), 田平町(0.939),
	上昇	低下	長与町(0.847)
	低下	上昇	*豊玉町(0.854), 上対馬町(0.879)
	低下	低下	川棚町(0.850)
0.5以上0.8未満	上昇	上昇	小浜町(0.719), 芦辺町(0.803), 宇久町(0.635), 新魚目町(1.213), 小佐々町(0.567), 有明町(0.904) 奈留町(0.695),
	上昇	低下	*奈良尾町(0.796), *深江町(0.852), 国見町(0.737), *松浦市(0.746), 千々石町(0.644), 小値賀町(0.643) 生月町(0.536), 加津佐町(0.651), *琴海町(0.732), 波佐見町(0.627), 富江町(0.498), 吉井町(0.519) 大瀬戸町(0.545)
	低下	上昇	*大島町(0.734), 平戸市(0.692), 南有馬町(0.596), 勝本町(0.552), 西有家町(0.552), *西彼町(0.527)
	低下	低下	有川町(0.734), 高来町(0.525), 上県町(0.459), 若松町(0.411), 福島町(0.429),
0.5未満	上昇	上昇	美津島町(1.091), 鷹島町(0.795), 吾妻町(0.528), 峰町(0.547), 布津町(0.416), 西海町(0.311)
	上昇	低下	石田町(0.426), 伊王島町(0.670), *東彼杵町(0.576), 南串山町(0.407), *森山町(0.448), *飯盛町(0.442)
	低下	上昇	
	低下	低下	小長井町(0.441), 鹿町町(0.406), 香焼町(0.337), 野母崎町(0.364), 崎戸町(0.354), 玉之浦町(0.260)

(注)1) 94～99年調査で小売販売額が1回でも秘匿の9地域(高島町, 三和町, 外海町, 瑞穂町, 北有馬町, 大島村, 世知原町, 岐宿町, 三井楽町)を除く。

2) ()内の数値は1999年現在の吸引度指数。

3) *は94～99年では上昇。

(資料) 表2. と同じ。

表5. 吸引度指数・行政人口・商業人口の変化傾向

吸引度指数 (1994年)	吸引度指数 99/94	行政人口 99/94	商業人口 99/94	市町村別
1以上	上昇	増加	増加	愛野町, 時津町, 大村市
		減少	増加	福江市, 佐世保市, 島原市, 郷ノ浦町
		減少	減少	口之津町
	低下	増加	増加	佐々町
		増加	減少	諫早市
		減少	減少	江迎町, 上五島町, 長崎市, 巖原町
0.8以上1未満	上昇	増加	増加	多良見町
		減少	増加	有家町, 田平町
		減少	減少	上対馬町
	低下	増加	増加	長与町
		増加	減少	川棚町
		減少	減少	豊玉町
0.5以上0.8未満	上昇	増加	増加	有明町, 琴海町, 深江町, 小佐々町, 松浦市
		減少	増加	新魚目町, 奈留町, 芦辺町, 西彼町
		減少	減少	宇久町, 奈良尾町, 小浜町, 大島町
	低下	増加	増加	
		増加	減少	波佐見町, 高来町, 吉井町
		減少	減少	国見町, 南有馬町, 西有家町, 平戸市, 勝本町, 加津佐町, 有川町, 大瀬戸町 小値賀町, 千々石町, 福島町, 富江町, 上県町, 若松町, 生月町
0.5未満	上昇	増加	増加	吾妻町, 森山町
		減少	増加	美津島町, 鷹島町, 布津町, 峰町, 伊王島町, 東彼杵町, 飯盛町, 西海町
		減少	減少	
	低下	増加	増加	
		増加	減少	小長井町
		減少	減少	南串山町, 崎戸町, 野母崎町, 鹿町町, 石田町, 香焼町, 玉之浦町

(資料) 表2. と同じ。

地域小売業の構造変化

第1位の商圈規模を誇る長崎市小売業は、杵岐地域と対馬地域を除く地域に何らかの影響を与えているが、その主要舞台は、長崎・西彼地域、県央地域、島原半島地域、五島地域（下五島地域）となっていると言える。そこで、この範囲を一応長崎商圈として捉えたと、この商圈内では、県央地域で諫早市と大村市、島原半島地域で島原市、愛野町、口之津町、五島地域で福江市、長崎市との隣接部で時津町が各々独立の商圈を形成し、その中心に位置している。

また、県下第2位の商圈規模を持つ佐世保市小売業が何らかの影響を与えている県北地域、県央地域（東彼3町）、五島地域（上五島地域）を一応佐世保商圈として捉えたと、この商圈内では、県北地域で佐々町と江迎町、五島地域で上五島町が各々独自の商圈を形成し、その中心に位置している。

さらに、長崎市と佐世保市の両都市小売業の影響がほとんど及ばない杵岐地域と対馬地域についてみると、杵岐地域では郷ノ浦町が、対馬地域では巖原町が独自の商圈を形成し、各々が島内唯一の小売中心地域となっている。

1997年になると、対馬地域で従来唯一の小売中心地であった巖原町が消費地域へ転落し、県内の小売中心地域は14地域から13地域へと1つ減少したが、構造的にはそれほど大きな変化はみられなかった。しかし、このことについて、もう少し立ち入ってみると、以下のような興味深い事実を読み取ることができる。

まず、長崎商圈内では、愛野町、福江市、島原市、大村市、時津町、口之津町の6地域が1994年に比べて吸引度指数を上昇させ、小売中心地性をますます高め、また、依然として消費地域である

が、布津町、伊王島町、森山町、飯盛町、奈良尾町、琴海町、有明町、深江町、奈留町、吾妻町、多良見町、南串山町、加津佐町、有家町、大瀬戸町、国見町、長与町、小浜町、千々石町の19地域が吸引度指数を上昇（流出率を低下）させている。これに対して、この地域で頂点に立つ長崎市は、この間に小売中心地性を低下させている。これには、上記にあげた各地域が小売中心地性を上昇させたことが関係していると言えるが、特に、「平成12年度 消費者購買実態調査報告者」⁴⁾などから類推すると、時津町、長与町、多良見町、琴海町、大瀬戸町、伊王島町、飯盛町、愛野町、奈良尾町などが吸引度指数を上昇させた結果であるように思われる。また、この地域で、長崎市につぐ商圈規模の諫早市も小売中心地性を低下させているが、これには、小売中心地性を高めた隣接地域、特に、大村市の影響が大きかったのではないかと推量される。ともあれ、長崎商圈内で、94年に小売中心地域であったところで両都市以外に吸引度指数を低下させている地域は存在していないので、両都市の低下傾向は余計に目立っている。さらに、上記で取り上げなかったその他の地域についてみると、すべての地域が吸引度指数を低下させているので、これらの地域はますます消費地域の色合いを強めてきていると言える。

次に、佐世保商圈についてみると、1994年当時の小売中心地域では、上五島町のみが小売中心地性を高め、後述する佐世保市、佐々町、江迎町の3地域はいずれも小売中心地性を低下させているのが目立っている。また、依然として消費地域であるが、鷹島町、新魚目町、東彼杵町、松浦市、吉井町、生月町、西海町、田平町、宇久町、小佐々町、大瀬戸町、小値賀町、波佐見町の13地域

が吸引度指数を上昇させている。これに対して、佐世保市は、長崎市と全く同様に、行政人口・商業人口が減少する中で小売中心地性を低下させている。また、この地域で最も高い吸引度指数を誇る佐々町も行政人口は増加したものの、商業人口が減少して、小売中心地性を低下させている。さらに、江迎町も行政人口・商業人口が減少する中で、小売中心地性を低下させている。このように、県北地域では、従来の小売中心地域が軒並みに小売中心地性を低下させているのであるが、佐世保市については、前述の吸引度指数を高めた全地域、また、佐々町と江迎町については、吸引度指数を高めた隣接・周辺地域の影響を受けた結果であるように思われる。

さらに、杵岐地域と対馬地域についてみると、杵岐地域では、唯一の小売中心地域である郷ノ浦町が中心地性を高め、また、依然として消費地域ではあるが、芦辺町と石田町が吸引度指数を高めているのに対して、勝本町のみが吸引度指数を低下させている。一方、対馬地域では、唯一の小売中心地域でこれまで高い中心地性を誇っていた厳原町が消費地域へと転落し、代わって、隣接する美津島町がまだ消費地域であるが、吸引度指数を急上昇させているのが特に注目される。なお、その他の地域では、峰町が吸引度指数を高めているが、豊玉町、上県町、上対馬町の3地域は吸引度指数を低下させている。

1999年には、多良見町、有家町、新魚目町、美津島町の4地域が消費地域から小売中心地へ昇格する一方で、上五島町が小売中心地から消費地域へ転落し、小売中心地域は、97年の13地域から16地域へと3地域増加した。

この状況について、まず、長崎商圏内でみると、

時津町、愛野町、口之津町の3地域が小売中心地性を引き続き高め、また、引き続き吸引度指数を上昇させてきた多良見町と有家町の2地域が新たに小売中心地域へ昇格した。また、依然として消費地域であるが、有明町、奈留町、伊王島町、吾妻町、布津町、小浜町の6地域も引き続き吸引度指数を上昇（流出率を低下）させている。さらに、南有馬町、大島町、西有家町の3地域が新たに吸引度指数を高めている。これに対して、長崎市は、引き続き行政人口・商業人口とも減少する中で、小売中心地性を低下させている。これには、上記にあげた各地域が小売中心地性を上昇させたことが関係していると言えるが、特に、時津町、多良見町、伊王島町、愛野町などの影響の結果であるように思われる。また、諫早市も引き続き小売中心地性を低下させているが、これには、小売中心地性を高めた隣接地域の影響が大きかったのではないかと推量される。さらに、大村市の吸引度指数が上昇から低下に転じて、同市も小売中心地性を低下させている。つまり、長崎商圏においては、商圏規模の大きい3都市がいずれも小売中心地性を低下させているわけで、この点については注目しておいていただろう。さらに、上記で取り上げなかったその他の地域は、すべて吸引度指数を低下させているのであるが、その中で、引き続き吸引度指数を低下させている地域は、玉之浦町、香焼町、野母崎町、小長井町、富江町、高来町の6地域となっており、その中には地域小売業が壊滅状況に陥ったと思われる地域もいくつか存在している。

次に、佐世保商圏についてみると、従来の小売中心地域では、佐世保市のみが小売中心地性を高め、しかも、その吸引度指数は1994年水準を上回

地域小売業の構造変化

るほどに回復しているのが注目される。また、引き続き吸引度指数を上昇させてきた新魚目町が小売中心地域へ昇格し、上五島地域の中で上五島町に代わって唯一の小売中心地域へと成長したのも目立っている。さらに、依然として消費地域であるが、田平町、西海町、鷹島町、宇久町、小佐々町の5地域が引き続き吸引度指数を上昇させ、また、新たに平戸市が吸引度指数を上昇させている。これに対して、この地域で最も高い吸引度指数を維持してきた佐々町が行政人口・商業人口も増加する中で引き続き小売中心地性を低下させ、吸引度指数では遂に佐世保市に抜かれている。さらに、江迎町は、行政人口・商業人口が減少する中で、引き続き小売中心地性を低下させている。このように、佐世保商圏では、従来の小売中心地域では佐世保市のみが小売中心地性を高めているのに対して、佐々町と江迎町が引き続き小売中心地性を低下させているのが特徴的である。

さらに、壱岐地域と対馬地域についてみると、壱岐地域では、唯一の小売中心地域である郷ノ浦町が小売中心地性を若干低下させているが、これには、依然として消費地域にとどまっているものの、芦辺町が引き続き吸引度指数を高めてきたことが関係していると思われる。また、対馬地域では、美津島町がこれまでの消費地域から小売中心地域へと上昇し、一方、1997年に消費地域へ転落した厳原町が若干吸引度指数を高め、さらに、豊玉町、峰町、上対馬町も吸引度指数を上昇させおり、上県町のみが引き続き吸引度指数を低下させているのが注目される。

4. 大型店進出による地域小売構造の変化

(1) 大型店の動向

以上、1994年から99年までの小売中心地体系の変貌についてみてきたが、その変貌にはこの間の大型店の進出がかなり関係していると思われる。そこで、以下、大型店の進出と小売中心地体系の変貌との関連を明らかにし、そこにみられる諸特徴を抽出していこう。なお、ここで利用する大型店のデータは、93年末、96年末、98年末現在のものである。

長崎県における大型店は、1993年現在、79市町村中33市町村に存在している（これまで対象としてきた70市町村では32市町村に存在している）。その店舗数は、第1種が38店、第2種が173店、合計で211店である。また、その売場面積は、第1種が268,593㎡、第2種が193,263㎡となっており、合計では461,856㎡に達し、小売総売場面積（94年現在）の33.3%を占めている（表6～8）。

1996年になると、大型店が立地する地域は93年に比べて7地域増えて40地域になった。この段階での店舗数をみると、第1種が45店（93年比7店増）、第2種が195店（同22店増）、合計で240店（同29店増）となり、その売場面積は、第1種321,885㎡（同53,292㎡増）、第2種226,732㎡（同33,469㎡増）といずれも増加し、合計で548,617㎡（同86,761㎡増）に達し、小売総売場面積（97年現在）の38.4%を占めるに至った。

1998年には、大型店が立地する地域は96年に比べてさらに4地域増えて44地域になった。この段階での店舗数をみると、第1種が53店（96年比8店増）、第2種が216店（同21店増）、合計で269店（同29店増）を数え、その売場面積は、第1種392,104㎡（同70,219㎡増）、第2種248,304㎡（同21,572㎡増）、合計で640,408㎡（同91,791㎡

表6. 大型店店舗数

地域	大型店合計(店)			第1種(店)			第2種(店)		
	1993	1996	1998	1993	1996	1998	1993	1996	1998
長崎県	211	240	269	38	45	53	173	195	216
長崎市	67	69	72	15	16	17	52	53	55
佐世保市	32	38	43	8	10	13	24	28	30
島原市	9	9	12	2	3	3	7	6	9
諫早市	21	21	24	5	5	5	16	16	19
大村市	15	20	22	3	4	5	12	16	17
福江市	7	8	8		1	1	7	7	7
平戸市	0	2	2					2	2
松浦市	2	3	2		1	1	2	2	1
三和町	0	1	3					1	3
多良見町	1	1	2			1	1	1	1
長与町	4	5	5				4	5	5
時津町	6	6	12	2	2	3	4	4	9
琴海町	0	1	1					1	1
西彼町	0	1	1					1	1
大島町	3	3	1				3	3	1
大瀬戸町	1	1	1				1	1	1
外海町	2	2	2				2	2	2
東彼杵町	1	1	1				1	1	1
川棚町	3	3	4				3	3	4
波佐見町	3	4	3				3	4	3
有明町	2	2	2				2	2	2
国見町	2	2	2				2	2	2
吾妻町	0	0	1						1
愛野町	1	2	2				1	2	2
加津佐町	0	0	1						1
口之津町	3	3	3	1	1	1	2	2	2
南有馬町	1	1	1				1	1	1
北有馬町	0	1	1					1	1
西有家町	0	0	1						1
有家町	2	2	3			1	2	2	2
布津町	0	0	1						1
深江町	0	1	1					1	1
生月町	0	1	1					1	1
江迎町	1	1	1				1	1	1
鹿町	1	1	1				1	1	1
佐々町	5	6	6	1	1	1	4	5	5
吉井町	1	1	1				1	1	1
上五島町	4	3	6				4	3	6
新魚目町	1	2	2				1	2	2
有川町	3	2	2				3	2	2
郷ノ浦町	1	1	1				1	1	1
芦辺町	1	1	1	1	1	1			
巖原町	4	4	3				4	4	3
美津島町	1	4	4				1	4	4

(資料)1. 『全国大型店総覧'98』東洋経済新報社, 1998年。

2. 『全国大型店総覧2000』東洋経済新報社, 2000年。

地域小売業の構造変化

表7. 大型店売場面積

地域	大型店合計(m ²)			第1種(m ²)			第2種(m ²)		
	1993	1996	1998	1993	1996	1998	1993	1996	1998
長崎県	461,856	548,617	640,408	268,593	321,885	392,104	193,263	226,732	248,304
長崎市	185,718	192,597	202,171	121,815	129,570	140,435	63,903	63,027	61,736
佐世保市	103,616	123,610	160,237	73,671	89,036	124,005	29,945	34,574	36,232
島原市	17,995	20,439	25,474	9,931	13,447	13,909	8,064	6,992	11,565
諫早市	42,332	43,588	48,163	25,902	25,902	25,815	16,430	17,686	22,348
大村市	30,662	50,484	54,455	16,515	33,171	34,101	14,147	17,313	20,354
福江市	6,915	11,786	11,988		4,871	5,073	6,915	6,915	6,915
平戸市	0	1,518	1,518					1,518	1,518
松浦市	1,415	6,544	6,664		5,129	5,994	1,415	1,415	670
三和町	0	2,973	3,779					2,973	3,779
多良見町	985	985	5,285			4,300	985	985	985
長与町	4,331	4,872	4,873				4,331	4,872	4,873
時津町	13,028	13,028	23,951	7,945	7,945	14,501	5,083	5,083	9,450
琴海町	0	2,470	2,470					2,470	2,470
西彼町	0	1,420	907					1,420	907
大島町	4,132	4,132	2,541				4,132	4,132	2,541
大瀬戸町	1,435	1,435	1,435				1,435	1,435	1,435
外海町	2,480	2,480	2,480				2,480	2,480	2,480
東彼杵町	648	648	648				648	648	648
川棚町	2,711	2,711	3,691				2,711	2,711	3,691
波佐見町	3,126	4,213	3,392				3,126	4,213	3,392
有明町	2,014	1,893	1,893				2,014	1,893	1,893
国見町	2,643	2,626	2,626				2,643	2,626	2,626
吾妻町	0	0	989						989
愛野町	794	2,786	2,786				794	2,786	2,786
加津佐町	0	0	843						843
口之津町	4,636	4,636	4,608	3,233	3,233	3,205	1,403	1,403	1,403
南有馬町	655	655	655				655	655	655
北有馬町	0	1,412	2,863					1,412	2,863
西有家町	0	0	1,857						1,857
有家町	1,159	1,381	10,581			9,200	1,159	1,381	1,381
布津町	0	0	680						680
深江町	0	982	983					982	983
生月町	0	1,891	1,953					1,891	1,953
江迎町	563	563	563				563	563	563
鹿町町	798	798	798				798	798	798
佐々町	8,340	11,202	13,236	4,171	4,171	6,205	4,169	7,031	7,031
吉井町	732	732	732				732	732	732
上五島町	3,562	2,992	4,875				3,562	2,992	4,875
新魚目町	1,499	3,227	2,948				1,499	3,227	2,948
有川町	2,301	1,701	1,942				2,301	1,701	1,942
郷ノ浦町	924	924	924				924	924	924
芦辺町	5,410	5,410	5,361	5,410	5,410	5,361			
巖原町	3,663	3,663	2,871				3,663	3,663	2,871
美津島町	634	7,210	6,719				634	7,210	6,719

(資料)表6. に同じ。

調査と研究 第33巻

表8. 小売売場面積, 大型店売場面積, 大型店シェア

地域	小売売場面積 (㎡)			大型店合計 (㎡)			大型店増加面積 (㎡)			大型店シェア (%)		
	1994	1997	1999	1993	1996	1998	93-98	93-96	96-98	1994	1997	1999
長崎県	1,388,527	1,430,193	1,526,011	461,856	548,617	640,408	178,552	86,761	91,791	33.3	38.4	42.0
長崎市	413,657	416,364	414,008	185,718	192,597	202,171	16,453	6,879	9,574	44.9	46.3	48.8
佐世保市	239,588	230,888	271,367	103,616	123,610	160,237	56,621	19,994	36,627	43.2	53.5	59.0
島原市	50,960	56,239	61,206	17,995	20,439	25,474	7,479	2,444	5,035	35.3	36.3	41.6
諫早市	103,762	102,239	102,785	42,332	43,588	48,163	5,831	1,256	4,575	40.8	42.6	46.9
大村市	78,208	92,850	92,665	30,662	50,484	54,455	23,793	19,822	3,971	39.2	54.4	58.8
福江市	32,037	36,895	50,236	6,915	11,786	11,988	5,073	4,871	202	21.6	31.9	23.9
平戸市	21,851	20,322	22,226	0	1,518	1,518	1,518	1,518	0	0.0	7.5	6.8
松浦市	17,548	23,768	24,289	1,415	6,544	6,664	5,249	5,129	120	8.1	27.5	27.4
三和町	x	6,169	6,231	0	2,973	3,779	3,779	2,973	806	x	48.2	60.6
多良見町	9,433	8,240	14,516	985	985	5,285	4,300	0	4,300	10.4	12.0	36.4
長与町	15,066	16,446	16,516	4,331	4,873	4,873	542	541	1	28.7	29.6	29.5
時津町	27,564	30,403	41,036	13,028	13,028	23,951	10,923	0	10,923	47.3	42.9	58.4
琴海町	6,983	8,995	9,198	0	2,470	2,470	2,470	2,470	0	0.0	27.5	26.9
西彼町	3,245	5,741	6,082	0	1,420	907	907	1,420	-513	0.0	24.7	14.9
大島町	5,273	5,009	5,155	4,132	4,132	2,541	-1,591	0	-1,591	78.4	82.5	49.3
大瀬戸町	4,966	4,911	5,558	1,435	1,435	1,435	0	0	0	28.9	29.2	25.8
外海町	x	4,930	4,265	2,480	2,480	2,480	0	0	0	x	50.3	58.1
東彼杵町	5,649	4,981	6,086	648	648	648	0	0	0	11.5	13.0	10.6
川棚町	11,948	11,602	13,138	2,711	2,711	3,691	980	0	980	22.7	23.4	28.1
波佐見町	11,547	12,292	11,805	3,126	4,213	3,392	266	1,087	-821	27.1	34.3	28.7
有明町	7,110	7,669	7,333	2,014	1,893	1,893	-121	-121	0	28.3	24.7	25.8
国見町	9,541	11,674	11,951	2,643	2,626	2,626	-17	-17	0	27.7	22.5	22.0
吾妻町	4,590	5,063	6,526	0	0	989	989	0	989	0.0	0.0	15.2
愛野町	5,242	6,427	7,051	794	2,786	2,786	1,992	1,992	0	15.1	43.3	39.5
加津佐町	8,456	8,849	8,903	0	0	843	843	0	843	0.0	0.0	9.5
口之津町	8,603	9,275	9,557	4,636	4,636	4,608	-28	0	-28	53.9	50.0	48.2
南有馬町	6,411	5,630	5,922	655	655	655	0	0	0	10.2	11.6	11.1
北有馬町	x	x	3,392	0	1,412	2,863	2,863	1,412	1,451	x	x	84.4
西有家町	6,717	6,430	7,454	0	0	1,857	1,857	0	1,857	0.0	0.0	24.9
有家町	9,277	16,497	17,967	1,159	1,381	10,581	9,422	222	9,200	12.5	8.4	58.9
布津町	2,712	2,962	2,896	0	0	680	680	0	680	0.0	0.0	23.5
深江町	5,074	5,605	6,328	0	982	983	983	982	1	0.0	17.5	15.5
生月町	5,293	6,237	5,789	0	1,891	1,953	1,953	1,891	62	0.0	30.3	33.7
江迎町	7,196	6,270	7,005	563	563	563	0	0	0	7.8	9.0	8.0
鹿町町	4,592	3,950	4,133	798	798	798	0	0	0	17.4	20.2	19.3
佐々町	18,965	18,338	22,858	8,340	11,202	13,236	4,896	2,862	2,034	44.0	61.1	57.9
吉井町	4,578	4,092	4,715	732	732	732	0	0	0	16.0	17.9	15.5
上五島町	11,923	11,292	10,529	3,562	2,992	4,875	1,313	-570	1,883	29.9	26.5	46.3
新魚目町	5,762	8,631	10,380	1,499	3,227	2,948	1,449	1,728	-279	26.0	37.4	28.4
有川町	9,041	8,642	9,133	2,301	1,701	1,942	-359	-600	241	25.5	19.7	21.3
郷ノ浦町	16,071	15,755	15,771	924	924	924	0	0	0	5.7	5.9	5.9
芦辺町	12,582	12,085	12,867	5,410	5,410	5,361	-49	0	-49	43.0	44.8	41.7
厳原町	17,906	18,102	17,563	3,663	3,663	2,871	-792	0	-792	20.5	20.2	16.3
美津島町	6,168	9,956	11,200	634	7,210	6,719	6,085	6,576	-491	10.3	72.4	60.0

(資料) 1. 『商業統計表—第3巻 産業編—』(各年版)。

2. 表6. と同じ。

地域小売業の構造変化

増)と93~96年を上回る増加となっており、その小売総売場面積(99年現在)に占める割合は42.0%にまで達している。

(2) 大型店の進出と小売中心地体系の変貌

大型店について地域別に、特に小売中心地域との関連でみると、1993年現在、長崎商圏内では、長崎市(店舗数67店、大型店店舗面積185,718㎡、小売総売場面積に占める大型店の割合=大型店占有率44.9%、以下、この順に表記)、諫早市(21店、42,332㎡、40.8%)、大村市(15店、30,662㎡、39.2%)、島原市(9店、17,995㎡、35.5%)、福江市(7店、6,915㎡、21.6%)、時津町(6店、13,028㎡、47.3%)、口之津町(3店、4,636㎡、53.9%)、愛野町(1店、794㎡、15.1%)となっており、大型店占有率では、長崎市、島原市、諫早市、大村市、時津町、口之津町の6地域が県平均を上回っている。また、佐世保商圏内では、佐世保市(32店、103,616㎡、43.2%)、佐々町(5店、8,340㎡、44.0%)、江迎町(1店、563㎡、7.8%)、上五島町(4店、3,562㎡、29.9%)となっており、佐世保市と佐々町の2地域が県平均を上回る大型店占有率を示している。さらに、壱岐地域と対馬地域についてみると、前者では郷ノ浦町(1店、924㎡、5.7%)、後者では厳原町(4店、3,663㎡、20.5%)となっており、両地域の大型店占有率は県平均を下回っている。

以上のように、1994年現在で小売中心地域となっている地域では、すべて大型店が立地しており、しかも、半分の7地域では、大型店占有率が県平均を上回っている。なお、このグループで、大型店占有率がかなり低い地域もいくつか存在しているが、そのうち、江迎町を除く福江市、郷ノ浦町、

厳原町の3地域は、県などの出先機関が集中しており、その地域を代表する中心地域となっているので、この3地域では、小売業も総合力で高い中心地性を維持しているものと思われる。

一方、大型店占有率が県平均を大幅に上回っている地域として、大島町(3店、4,132㎡、78.4%)と芦辺町(1店、5,410㎡、43.0%)の2地域があるが、両地域の吸引度指数は、前者が0.726、後者が0.692となっており、大型店占有率が高いにもかかわらず小売中心地域を形成するまでには至っていない。これには、大島町が人口の少ない離島(崎戸町とは架橋で結ばれている)であること、また、芦辺町も壱岐(離島)4町の1つであり、郷ノ浦町に隣接していることが関係していると思われる。

1997年になると、長崎商圏内では、小売中心地域は94年と全く同じ地域であるが、そのうち、この間に小売中心地性を上昇させた地域の大型店の動向は、愛野町(1店増、1,992㎡増、28.2ポイント上昇)、福江市(1店増、4,871㎡増、10.4ポイント増)、島原市(増減なし、2,444㎡増、1.0ポイント上昇)、大村市(5店増、19,822㎡、15.2ポイント上昇)、時津町(増減なし、増減なし、4.4ポイント低下)、口之津町(増減なし、増減なし、3.9ポイント低下)となっており、時津町と口之津町を除く4地域では店舗数(島原市を除く)・売場面積とも増加し、大型店占有率も上昇している。その中で特に注目されるのは大村市の動きで、大型店占有率は54.4%まで上昇している。また、愛野町の大型店占有率の上昇も目立っており、97年には43.3%にも達している。一方、この商圏内で小売中心地性を低下させている長崎市と諫早市についてみると、前者(2店増、

6,879㎡増, 1.4ポイント上昇), 後者(増減なし, 1,256㎡増, 1.8ポイント上昇)となっており, その店舗面積は相対的にはそれほど増加していない。

佐世保商圏についてみると, ここでも小売中心地域には変化はないが, 佐世保市, 佐々町, 江迎町の3地域が中心地性を低下させているのに対して, 上五島町のみがそれを上昇させている。これを大型店との関連でみると, 佐世保市(6店増, 19,994㎡増, 10.3ポイント上昇), 佐々町(1店増, 2,862㎡増, 17.1ポイント上昇), 江迎町(増減なし, 増減なし, 1.2ポイント上昇), 上五島町(1店減, 570㎡減, 3.4ポイント低下)となっており, 佐世保市と佐々町が大型店増加傾向の中で小売中心地性を低下させているのに対して, 上五島町は大型店減少傾向の中でそれを上昇させているのが特徴的である。

一方, 1997年現在も消費地域であるが, この間に大型店店舗面積をかなり増加させた地域として, 美津島町(3店増, 6,085㎡増, 62.1ポイント上昇), 松浦市(1店増, 5,129㎡増, 19.5ポイント上昇), 琴海町(1店増, 2,470㎡増, 27.5ポイント上昇), 生月町(1店増, 1,891㎡増, 30.3ポイント上昇), 新魚目町(1店増, 1,728㎡増, 11.4ポイント上昇)などがあるが, これらの地域の吸引度指数は, 美津島町0.461→0.912, 松浦市0.719→0.839, 琴海町0.645→0.755, 生月町0.692→0.735, 新魚目町0.593→0.912といずれも上昇しており, 特に美津島町と新魚目町の急上昇傾向が目立っている。

1999年になると, 長崎商圏内では, 新たに多良見町と有家町が小売中心地域へと上昇して, それは9地域を数えるに至ったが, そのうち, この間

にさらに小売中心地性を上昇させた地域では, 愛野町(増減なし, 増減なし, 3.8ポイント低下), 時津町(6店増, 10,923㎡増, 15.5ポイント上昇), 口之津町(増減0, 28㎡減, 1.8ポイント低下)となっている。その中では, 時津町の増加傾向が目立っており, 大型店占有率は54.8%にも達している。また, 引き続き吸引度指数を上昇させて, 新たに小売中心地域に加わった両町については, 多良見町(1店増, 4,300㎡増, 24.5ポイント上昇), 有家町(1店増, 9,200㎡増, 50.5ポイント上昇)となっており, これがその上昇の主因となっていると言えよう。一方, この商圏内で小売中心地性を引き続き低下させている長崎市と諫早市についてみると, 前者(3店増, 9,574㎡増, 2.6ポイント上昇), 後者(3店増, 4,575㎡増, 4.2ポイント上昇)となっており, いずれも増加傾向を示し, 大型店占有率も高くなっているが, それが顧客吸引力上昇には結びついていない。

佐世保商圏についてみると, 新魚目町が新たに小売中心地域に上昇し, 隣接する上五島町が消費地域へと転落するという変化がみられたが, 佐世保市, 佐々町, 江迎町の3地域が小売中心地地域であることには変化がなかった。これを大型店との関連でみると, 佐世保市(5店増, 36,627㎡増, 5.5ポイント上昇), 佐々町(増減0, 2,034㎡増, 3.2ポイント低下), 江迎町(増減なし, 増減なし, 0.9ポイント低下)となっており, このうちでは, 佐世保市の増加傾向が特に目立っているが, そのような中で, 同市の小売中心地性が94年を上回る水準まで回復しているのが特に注目される。また, 新たに小売中心地域に上昇した新魚目町であるが, 店舗数では増減なし, 店舗面積では279㎡減, 大型店占有率では9.0ポイント低下となっており,

地域小売業の構造変化

このことから、この間の小売中心地性の上昇を説明できないが、現地調査から判断すると、同一地区に出店した2店舗がこの間に相乗効果を発揮し、それが消費者に支持されて顧客吸引力に結びついた結果であるように思われる。

また、対馬地域で唯一の小売中心地域となった美津島町では、店舗数で増減なし、店舗面積で491㎡減、大型店占有率で12.4ポイント減少しており、ここでもこの間における小売中心地性の上昇をこの点から説明できないが、それでも、美津島町の大型店集積は、隣接する厳原町をはじめとした周辺各町よりもはるかに大きいので、これが顧客吸引力の源泉になっているものと言えよう。

5. 若干の展望

すでに指摘したように、長崎県においては、本稿での対象期間に小売中心地域は、1994年の14地域から97年には13地域へと1地域減少したものの、99年には3地域増加し16地域となったが、このような傾向をもたらした直接的な要因は大型店の進出にあったといっても過言ではない。そこで、以下ではその後の大型店の出店動向を中心に今後の地域間競争について若干の展望を試みてみたい。

長崎県におけるその後の大型店の出店動向を『全国大型小売店総覧2000』（東洋経済新報社、

2000年）によってみると、表9のとおりである。

この表からわかるように、その後の大型店の出店動向（増床も含む）では、長崎市と佐世保市への出店が注目される。すなわち、長崎市においては、2000年に入ってから、夢彩都（売場面積31,926㎡）、アミュープラザ長崎（同20,444㎡）、ハイパーモールメルクス（同10,092㎡）などの大型店の出店が相次ぎ、大型店の売場面積はその後70,903㎡拡大した。一方、佐世保市においても2000年に入ってから、ヤマダ電機テックランド佐世保店（同4,000㎡）、ウエルマート上本山店（同3,530㎡）、ハロー佐世保北店（同11,066㎡）などの出店がみられ、大型店の売場面積は22,632㎡増加している。

このように長崎県小売業の重層化した構造の頂点に立つ2都市への大型店の出店は、両都市の小売中心地性の上昇をもたらすものと思われるが、両都市への出店が中心商店街以外の立地なので、もし、これらの出店が両都市の中心商店街に多大な影響を与えるものであれば、両都市の小売中心地性は低下することも予想される。というのは、対象期間中に長崎市において大型店の売場面積はかなり増加したが、長崎市の小売中心地性はこの間に低下しているのである（佐世保市は上昇）。このようなことから、両都市については、近未来を予測することは困難であるが、その後大型店の進出があったその他の地域については、ほとんどの地域が吸引度指数を上昇させ、中には消費地域から小売中心地域へ上昇する地域も現れるものと思われる。具体的には、上対馬町は、恐らくこの次の商業統計調査では小売中心地域へと上昇するものと推察される。

最後に一言。大型店の出店は、他方では、市町

表9. 大型店のその後の出店動向

地域	合計		第1種		第2種	
	商店数(店)	売場面積(㎡)	商店数(店)	売場面積(㎡)	商店数(店)	売場面積(㎡)
長崎県	32	175,967	14	152,716	18	23,251
長崎市	7	70,903	3	66,518	4	4,385
佐世保市	6	22,632	3	18,996	3	4,036
島原市	2	6,535	1	6,109	1	426
藤原市	2	3,498			2	3,498
大村市	5	23,453	2	20,781	3	2,672
壱波江市	1	9,991	1	9,991		
平戸市	1	1,386			1	1,386
松浦市	1	4,016	1	4,016		
多良見町	1	12,251	1	12,251		
長門町	1	4,122	1	4,122		
時津町	1	10,332	1	10,332		
壱山町	1	998			1	998
吉井町	1	998			1	998
瀬ノ浦町	1	1,860			1	1,860
上対馬町	1	2,992			1	2,992

(注)1999年以降の出店動向
(資料)『全国大型店総覧2000』東洋経済新報社、2000年。

村内地区間競争を激化することになったが、本稿では紙幅の関係から言及できなかった。このことについては、今後の課題としたい。

(注)

- 1) 建野堅誠「長崎県小売業の構造変化－激化する地域間競争－」『九州マーケティング・アイズ』2001年10月号(VOL.19), 2001年11月, 2ページ。
- 2) 長崎県には79市町村あるが、本稿では、1994～99年の商業統計調査で小売販売額が1回でも秘匿の9地域(高島町, 三和町, 外海町, 瑞穂町, 北有馬町, 大島村, 世知原町, 岐宿町, 三井楽町)を除いて主として分析している。
- 3) 1999年商業統計調査では事業所の捕捉が行われているので、厳密には94年調査, 97年調査とは連続しない(99年調査は臨時調査)。
- 4) 長崎県商工労働部商工金融課商業振興班編『平成12年度 消費者購買実態報告書』長崎県商工労働部商工金融課, 2000年。